

平成25年度  
沖縄県地域統括相談支援センター主催

がんピアサポートフォローアップ研修会  
報告書

実施日：平成25年9月1日（日）

- 研修会名: がんピアサポートフォローアップ研修会
- 日時: 平成25年9月1日(日) 10:30～16:00 (昼食:12:00～13:00)
- 場所: 沖縄県医師会館 3階ホール
- 対象: ●午前の部  
がん患者・家族、医療者、その他関心のある方
- 午後の部  
平成23年度第1回がんピアサポーター養成基礎講座、平成23年度第2回がんピアサポーター養成基礎講座、平成24年度がんピアサポート初級編(試行版)研修会を3日間修了した方、現在患者会などでピアサポート活動をされている方
- 参加費: 無 料(要事前申込)
- 開催目的: ●午前の部  
ピアサポートに関する理解の向上
- 午後の部  
(1)コミュニケーションスキルの向上  
(2)ピアサポートの基本を再認識する
- 主催: 沖縄県地域統括相談支援センター
- 共催: 琉球大学医学部附属病院がんセンター

■チラシ表 (A4両面フルカラー)  
※修了者・県内患者会や医療機関に配布

平成25年度 沖縄県地域統括相談支援センター主催

# がんピアサポート フォローアップ研修会

自信を持って対応ができるようになるために 自分たちで考えよう

2013年 9月 1日

第一部 ▶ 10:30～12:00 <講演会> [日曜日]  
第二部 ▶ 13:00～16:00 <グループワーク他>

会場 ▶ 沖縄県医師会館 〒901-1105 南風原町字新川218-9

**このたび、現在ピアサポート活動を行っている方を対象に  
今後も引き続き円滑にピアサポート活動を行って  
いただけるよう、フォローアップ  
研修会の開催を企画致しました。**  
研修会ではコミュニケーション  
技術の復習、今までのご自身の  
対応を振り返る場を設け、次の  
ステップアップへの足がかりを  
つかんでいただきます。  
是非、多くの皆さんのご参加を  
お待ちしております。

**プログラム**

10:00～	受付
<b>■ 午前の部 ■</b>	
10:30～10:40	開会のあいさつ 増田 昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター センター長)
10:40～12:00	講演「仲間と共に～ピアサポートを支えるもの～」 講師:堀田 めぐみさん(がんサロンネットワーク熊本 代表理事)
12:00～13:00	休憩(昼食) * 昼食の用意はありません。ご自身で準備の程宜しくお願いします。
<b>■ 午後の部 ■</b>	
13:00～15:00	グループワーク メインファシリテーター:栗山 登至(琉球大学医学部附属病院がんセンター 医師)
15:00～15:10	休憩(10分)
15:10～15:40	講演「医療者とのコミュニケーション」 講師:大湾 勤子先生(国立病院機構 沖縄病院 緩和医療科医長)
15:40～15:55	まとめ
15:55～16:00	閉会のあいさつ 増田 昌人

参加対象

午前の部: がん患者・家族、医療者、その他関心のある方  
午後の部: ピアサポート研修会を3日間修了した方、現在  
患者会などでピアサポート活動をされている方

参加費無料  
要申込

講師 ● **堀田 めぐみ** さん (がんサロンネットワーク熊本 代表理事)  
(プロフィール)  
2005年3月、45歳のとき、急性リンパ性白血病を発症。当時、熊本県の小学校の理科の非常勤講師だった。一時はうつ状態に陥ったが、慢性疾患セルフマネジメントプログラムの受講をきっかけに元気を取り戻し、新たな仕事に取り組んでいる。



**お申込み・お問合せ先**  
**沖縄県地域統括相談支援センター**  
 電話:098-942-3407 FAX:098-942-3408 E-mail:to-katsu@jim.u-ryukyu.ac.jp

**申込締切** 2013年8月16日(金) ※本チラシ裏の申込書の必要事項ご記入の上、お申込下さい。

主催: 沖縄県地域統括相談支援センター 共催: 琉球大学医学部附属病院がんセンター 後援: 沖縄県福祉保健部

■チラシ裏（A4両面フルカラー）

沖縄県地域統括相談支援センター  
FAX:098-942-3408 電話:098-942-3407  
メール:[to-katsu@jim.u-ryukyu.ac.jp](mailto:to-katsu@jim.u-ryukyu.ac.jp)  
住所:〒903-0215西原町字上原207番地

参加申込書

記入日:平成25年 月 日

ふりがな		性別	生年月日
氏名		男・女	大正・昭和・平成 年 月 日 ( 才)
住所	〒 -		
電話		連絡のつく時間帯	
メール		平日・週末	時ごろ
お立場	がん体験者・がん患者の家族・医療従事者・その他( )		
患者会	所属していない・所属している	(患者会名)	
診断名		最終治療終了後	年経過
参加予定	1日参加希望 ・ 午前のみ参加希望 ・ 午後のみ参加希望		
備考			

**応募締切:平成25年8月16日(金)**

平成25年9月1日（日）会次第

時 間	(分)	内 容
10:00～	30分	受付開始
10:30～	5分	開会のあいさつ 増田 昌人（沖縄県地域統括相談支援センター センター長）
10:35～	5分	オリエンテーション 島袋 香織（沖縄県地域統括相談支援センター 事務）
10:40～	80分	●講演 「仲間と共に～ピアサポートを支えるもの～」 堀田 めぐみ先生（がんサロンネットワーク熊本 代表理事） ●質疑応答・アンケート記入・集合写真撮影
12:00～	45分	お昼休み
12:45～	15分	午後の部 受付開始（※午後の部アンケート・名札配布）
13:00～	120分	●DVD視聴(10分) ●グループワーク「相談対応についてみんなで考えよう」 ファシリテーター： 栗山 登至先生（琉球大学医学部附属病院がんセンター 医師） 大湾 勤子先生（独立行政法人 国立病院機構沖縄病院 緩和医療科医長）  アドバイザー： 堀田 めぐみ先生
15:00～	10分	休憩
15:10～	30分	●ミニレクチャー 「医療者とのコミュニケーションの取り方」 大湾 勤子先生 ●質疑応答
15:40～	15分	●まとめ 上原 弘美（沖縄県地域統括相談支援センター 相談員） ●アンケート記入
15:55～	5分	閉会のあいさつ 増田 昌人（沖縄県地域統括相談支援センター センター長）
16:00～	10分	集合写真 全日程終了



## 堀田 めぐみ（ほりた めぐみ）先生

2005年3月、45歳のとき、急性リンパ性白血病を発症。当時、熊本県の小学校の理科の非常勤講師だった。一時はうつ状態に陥ったが、慢性疾患セルフマネジメントプログラムの受講をきっかけに元気を取り戻し、新たな仕事に取り組んでいる。

- がんサロンネットワーク熊本代表理事
- 湖東がんサロン世話人代表
- 熊本がんサロン世話人副代表
- 熊本県難病相談・支援センター相談員
- 熊本市がんサポートセンターがん専門相談員
- 社会福祉士



## 大湾 勤子（おおわん いそこ）先生

昭和62年琉球大学医学部卒業。平成3年同大大学院卒業。内科専門医・呼吸器内科専門医・感染症専門医および緩和医療指導医であり、喘息をはじめCOPD、肺炎、間質性肺疾患、結核、肺癌等々あらゆる呼吸器疾患の診断および治療を行う。また、独立行政法人国立病院機構沖縄病院にて緩和医療医長として緩和病棟で様々ながん患者のケアについて中心的役割を果たしている。



## 栗山 登至（くりやま とし）先生

日本医科大学医学部卒業後、同大附属病院第一外科（消化器外科）に入局。

平成22年より琉球大学医学部附属病院がんセンターに勤務。沖縄がん心のケア研究会世話人代表。沖縄県での緩和医療、在宅医療の普及を目指し活動中。

○参加者： 午前の部 32名／午後の部 12名

※参加者の了承を得た上で記録の為の撮影を行いました。個人が特定されないよう一部ソフトフォーカスに処理しています。

▼ 午前の部：講演「仲間と共に～ピアサポートを支えるもの」堀田めぐみ先生（がんサロンネットワーク熊本）



▼ 堀田先生の講演



▼ 受講生の様子



▼ 午前の部：堀田さんを囲んで集合写真



▼ 午後の部：「グループワーク」栗山登至（琉球大学医学部附属病院がんセンター医師）



▼ DVD視聴：がん相談窓口について



▼ グループワーク風景



▼ グループワーク風景



▼ グループワークのまとめ



▼ ミニレクチャー「医師とのコミュニケーションのとり方」大湾勤子先生(独立行政法人国立病院機構沖縄病院 緩和医療科医長)



▼ 「閉会のあいさつ」増田 昌人(沖縄県地域統括相談支援センターセンター長)



▼ 午後の部: 集合写真



# ○ アンケート概要

---

## 1. 目的

当センター主催における研修会の内容の質の向上及び改善等を推進するため、また、当センターの評価に必要な資料の収集のため、参加者を対象としたアンケートを行った。

## 2. 内容

### <午前の部>

#### (1) 参加者属性

年齢・性別・お住まい・お立場

#### (2) 研修会の参加について

過去受講歴について・研修会認知経路・参加動機

#### (3) 研修会の内容について

研修会の満足度・理解度・今後の参加意向

#### (4) 意見・感想 等

### <午後の部>

#### (1) 参加者属性

年齢・性別・お住まい・お立場・患者会活動有無

#### (2) 研修会の内容について

グループワークの役立ち度と満足度、良かった所と改善してほしい所、  
今後学びたい事 等

#### (3) ピアサポート活動ファイル使用について

#### (4) フォローアップと活動の場の提供について

#### (5) 意見・感想

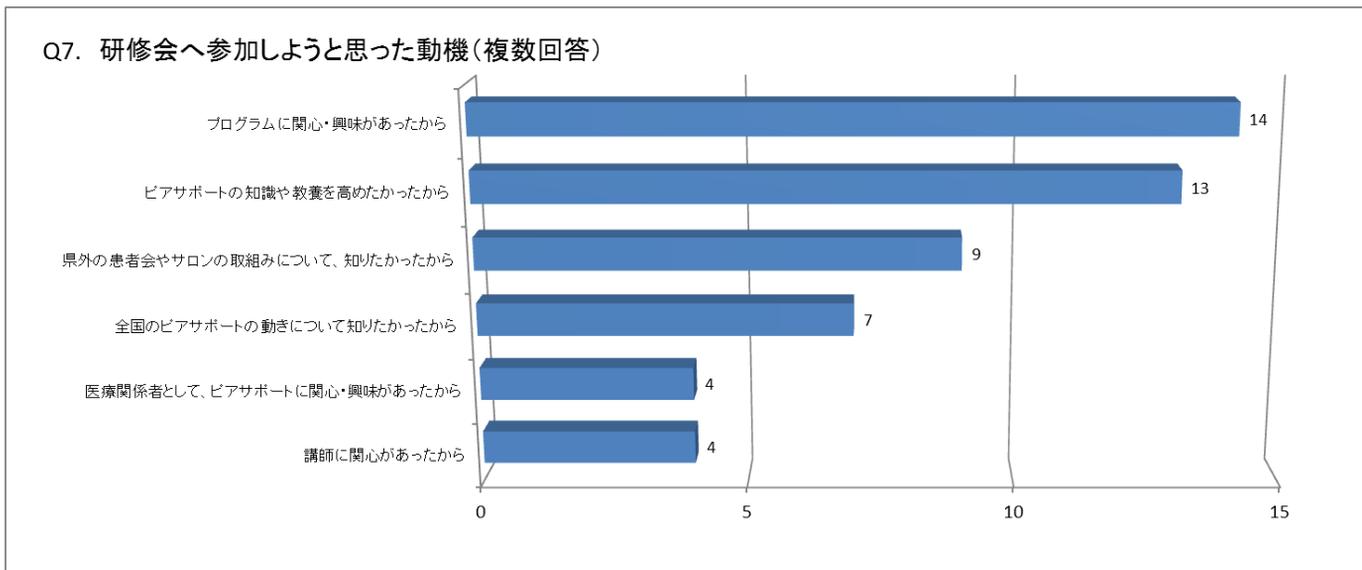
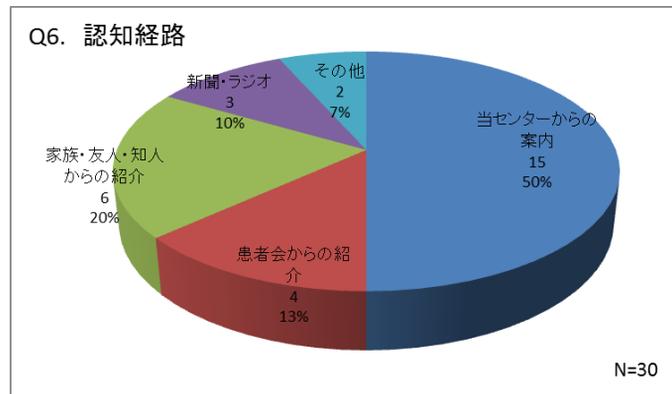
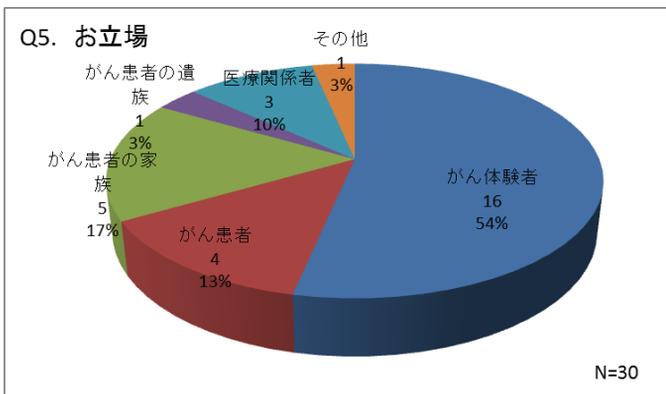
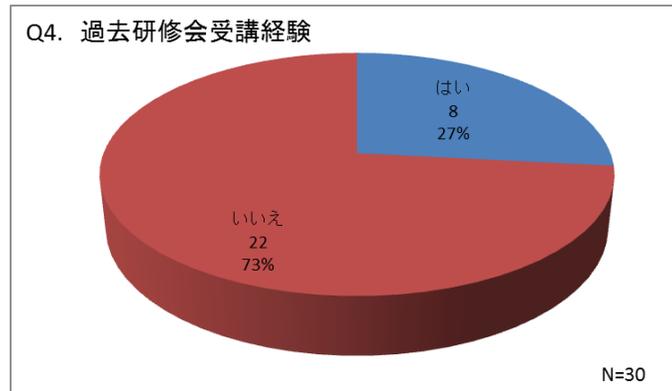
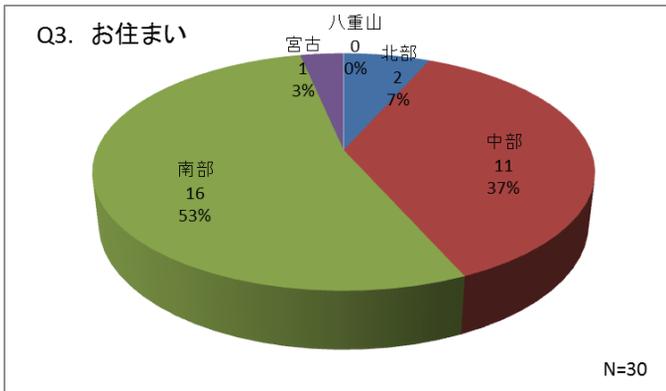
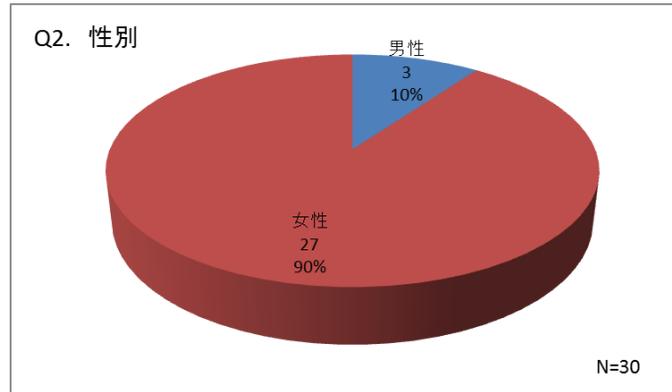
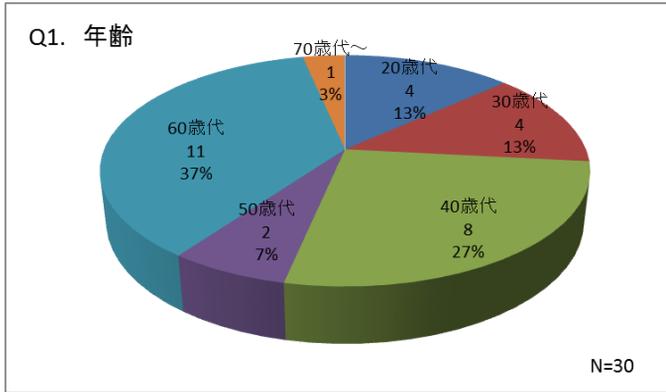
## 3. 調査方法 紙媒体によるアンケート

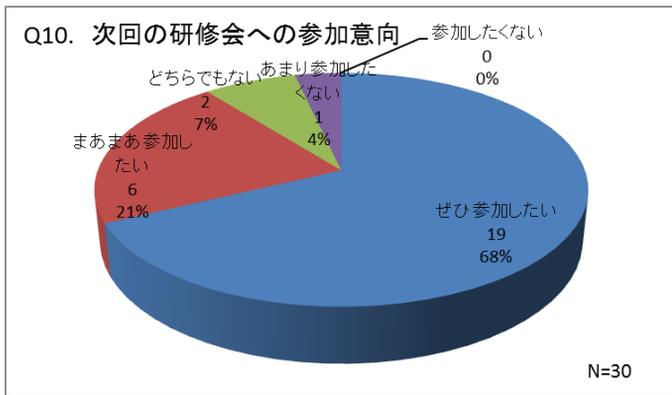
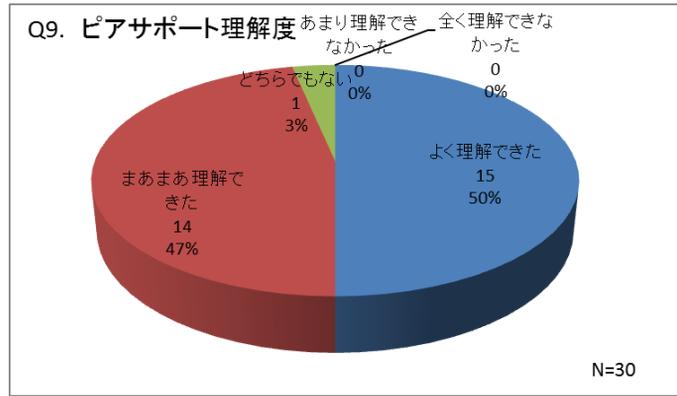
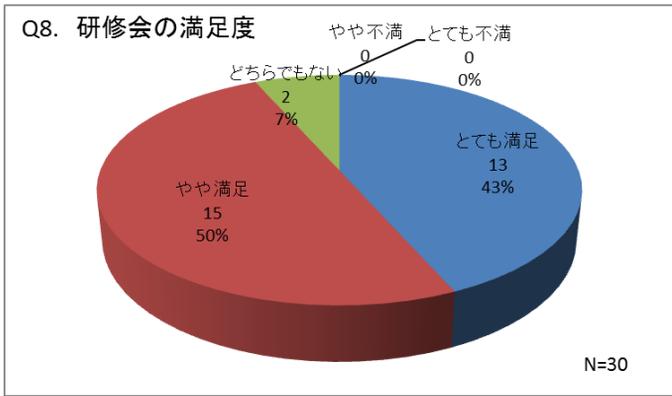
## 4. 調査対象 参加者全員

## 5. 実施日 平成25年9月1日(日)

# アンケート集計結果 <午前部>

■アンケート回収率:93.7% (30名/32名)





## Q11. ご意見・ご感想

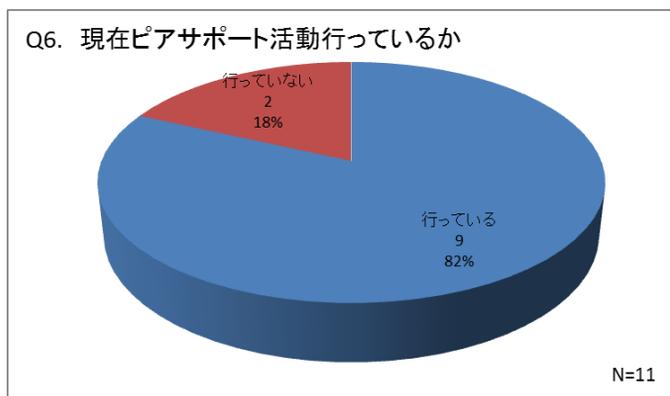
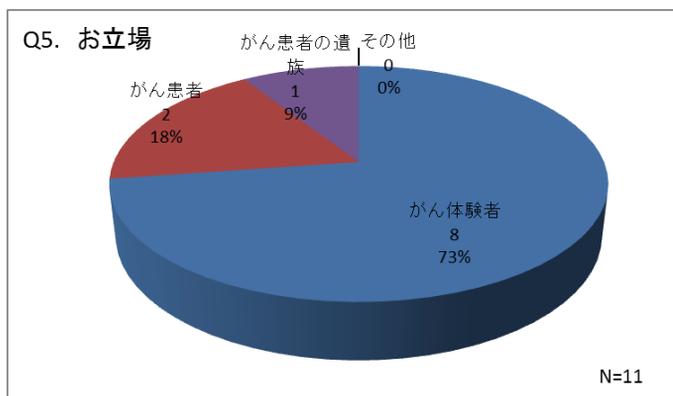
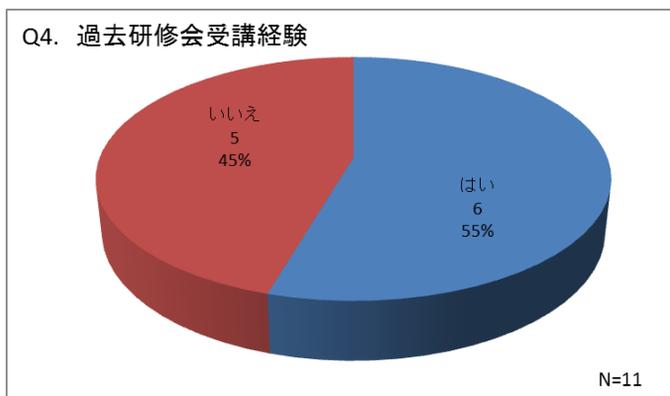
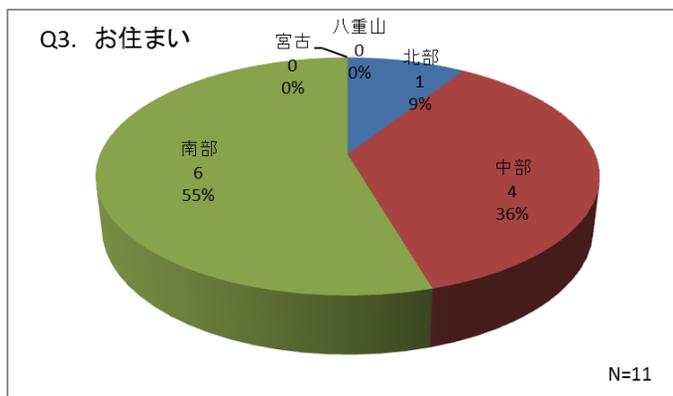
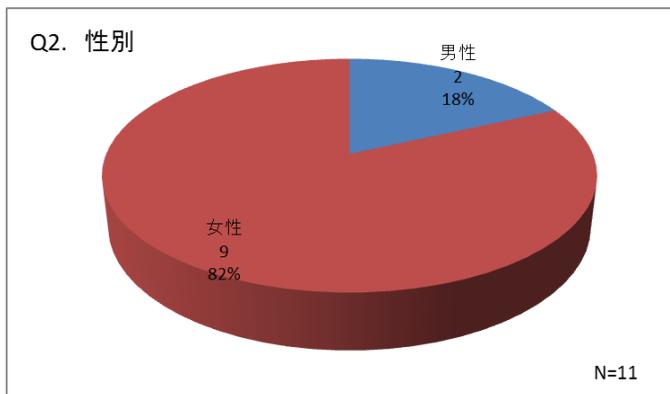
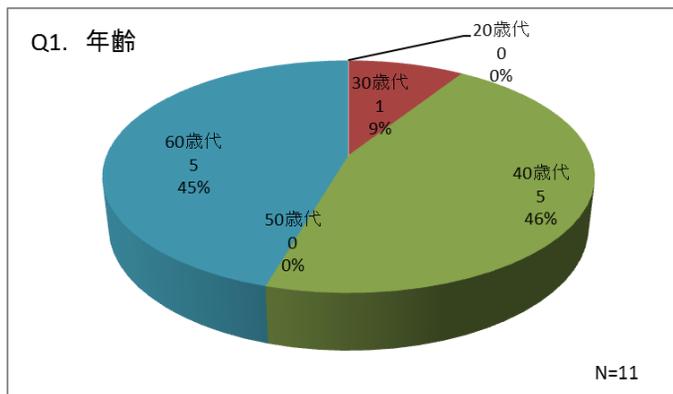
- 私は高齢者の一人暮らし、障害者室での傾聴ボランティア(地域の社会福祉協議会のメンバーとして)をしています。その中でがん当病の方に特に会うことがあり、ピアサポートする知識をえられたらいいかなーという思いで研修に参加しました。本日の研修を受けたことでピアサポーターについて関心が強くなったのでこれからできるだけ研修を受けられたらいいかなと思いました。
- 初めて参加します。ピアサポーターになるには看護師とか医療関係の資格を持っていないといけないのですか。がんに関する情報も知りたい。
- 初めて聴く講師のお話は新鮮で学ぶことが多いです。有難うございました。
- ピアサポートに関する研修会には初めて参加しました。実は院内患者会を結成して1年になりますが、最近になって病気に関する相談が少しずつ増えてきました。どのようにサポートしているのかわかりませんが、基本的にな心構えを学ぶことが出来て大変良かったと思います。
- 慢性疾患セルフマネジメントプログラムをもっと詳しく知りたいと思いました。前職の鍼灸整骨院でもがん患者であることを隠して施術を受けられることもあり、その内容や相談をされたときに自分自身の体験が全て通用する訳ではないことを痛感していたので今後の鍼灸治療にも心を大切に受け止めて役立てたいと思います。全ての患者様が前向きに夢や希望の持てるピアサポーターでありたいと思います。

## アンケート集計結果 <午前部>

- ピアサポートの活動をする中で大切な3つの約束を心にとめて活動しているつもりですが、なかなかうまく進行できないでいます。特に時間の部分、何回か参加された方は時間内で話していただけますが、そうでない方、話したい事が沢山ある方を制するのが苦手です。セルフサポートにも興味があるので少し勉強したいと思っています。
- ピアサポートから一歩進んだCDSMPについて、簡単な教材があったら良いと思う。
- がんサロンネットワークに興味があり、参加したが、立ち上げまでのいきさつや課題等もお聞きしたいと思いました。CDSMPのワークショップの話に惹かれました。本県でもその様な会がもたれ、患者力が強化できれば・・・と思います。
- 本日は堀田先生、事務局の皆様有難うございました。疾患は異なり、ピアサポートも私たちは当事者というより介護者に向けて行うことが多いのですが、交流会(2か月に一度)定例会(年2回)の内容や進行を考えるヒントをたくさんいただきました。これからも宜しくお願い致します。
- 私は平成14年6月乳がんで右乳房を全摘しました。主人の乳がんに対する理解がなく、一番支えてほしい人に死ぬほど苦しい日々を強いられ、誰にも相談できず、うつがひどくなり、死さえ頭をよぎっていました。主治医の紹介で心療内科を受診した時、薬に頼らず自分自身の心、精神で乗り越えたいと強く訴え、先生は私の心の叫びを受け止め、救われました。今は同じ病気に悩んでいる仲間たちのために主治医や診療内科の先生がやってくださったことを仲間たちに向き合って元気づけています。それが私を生かし人を生かすことだと信じて頑張っています。“あなたの話を聞いて元気になった。会えてよかった。”と言われた時、この病気も私にとっては良かったと思うほどです。
- 「CDSMPワークショップ」の存在を知り、参加したいと思いました。
- 今回研修会(AMのみ)に参加して、自分ががんであったときのことを思い出しました。18歳～19歳において卵巣がんを患ったのですが、そのころはピアサポートというものがあることを知りませんでした。そのころにピアサポートの存在を知っているとよかったと思ったのですが、病棟内に同じようながんを患った話相手がある意味ピアサポーターなのではないかと今回感じる事が出来ました。
- 今回の研修に初めて参加して、がんのピアサポートについて何も知らなかったのですが、がん患者さんが積極的に運営に携わっていることや患者会やがんサロンが患者さんにとって大きな緩和ケアにつながるということを学ぶことができて良かったです。セルフマネジメントについても今日初めて知りました。沖縄でも広がっていくといいなと思いました。学生もこのような会に今後参加できる機会が増えるといいなと思います。今日は貴重なご講演ありがとうございました。
- ピアサポートすることはとても難しいと思っています。みんな考え方が違うので・・・相手に知識(がんの)を与えてヘルプしてあげようと思って話をしたのに、逆に知ることで不安(がんへの)が高まり、患者会に出席するのがこわくて行くのがいやだと言われました。がんの事を知りたくないという人もいるし・・・頭の中からがんのことを消し去りたいと言っていましたので。よってどのような事話してよいのかわからなくなったりします。

# アンケート集計結果 < 午後の部 >

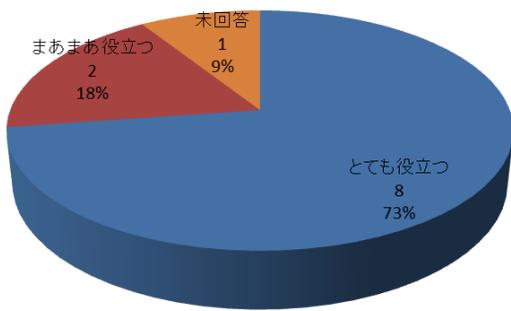
■アンケート回収率:91.6% (11名/12名)



## < 現在ピアサポート活動を患者会で行っている人のサロン運営で困っていること(記述式) >

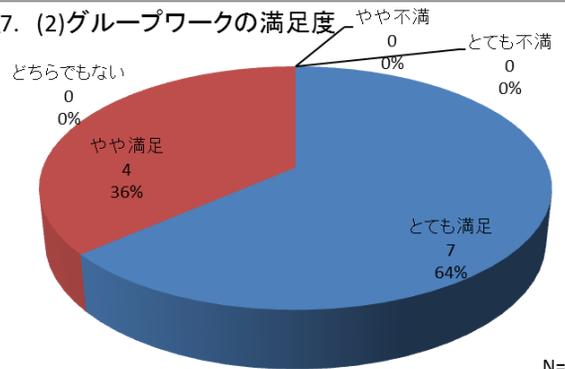
- 患者さんは声(辛さ・悩み)を聞いてほしいと思いながら、なかなかそういう場所を探せないことが多い。気軽にいつでも行って話せる場所も必要だが、サロンとして運営できる資金も必要。(自分たちの患者会は)対応できていない。
- 予後不良な患者さんや重複して疾患を患っている患者さん等心が休まる居場所づくり、社会参加するまで回復された患者さんの心の不安を支えること。
- 県内にはオストメイトが1500人余りいると聞いていますが、オストミー協会県支部会員は約60人位です。会員の増強に悩んでいます。これは全国的にも各県支部は同じ様な悩みを抱えています。オストメイトにとって、オストミー協会はもう必要ないということであればそれは良いことかもしれませんが、意外とそうでもないから頭が痛いです。
- 話を聞いてその方の気持ちに寄り添うことが大切だと分かっているけどやはり難しい。

Q7. (1)グループワーク 今後の役立ち度



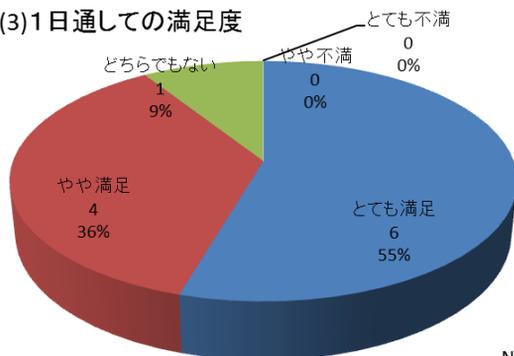
N=11

Q7. (2)グループワークの満足度



N=11

Q7. (3)1日通しての満足度



N=11

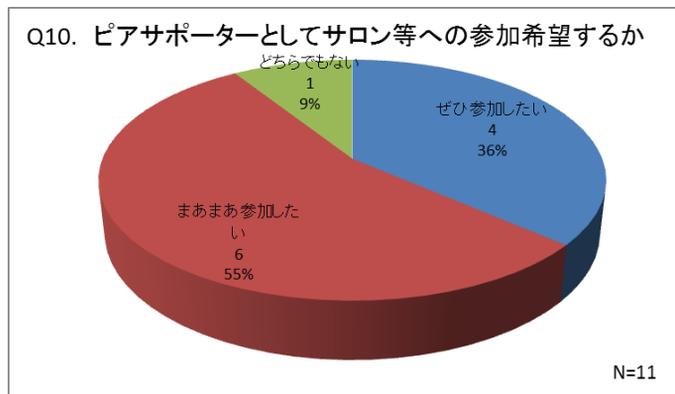
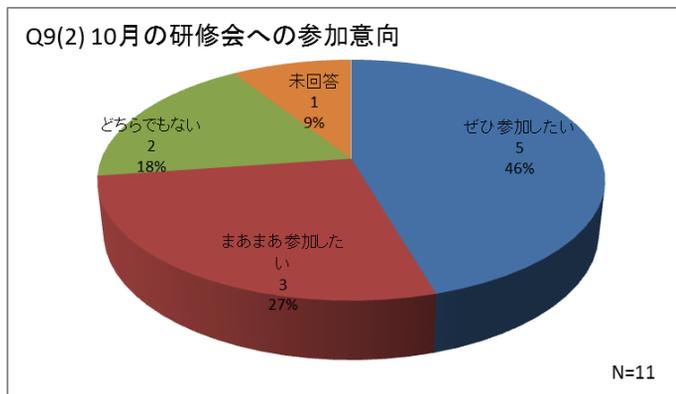
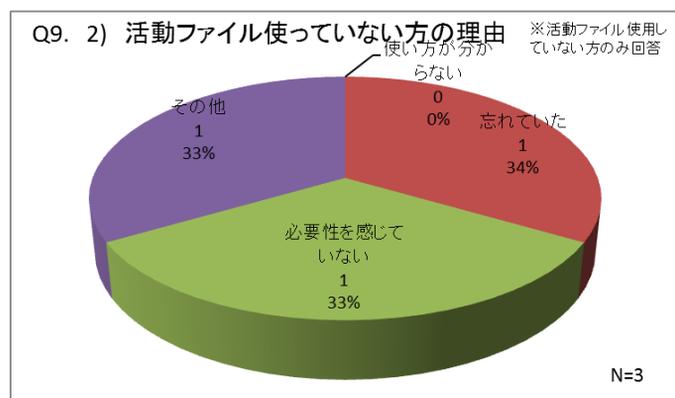
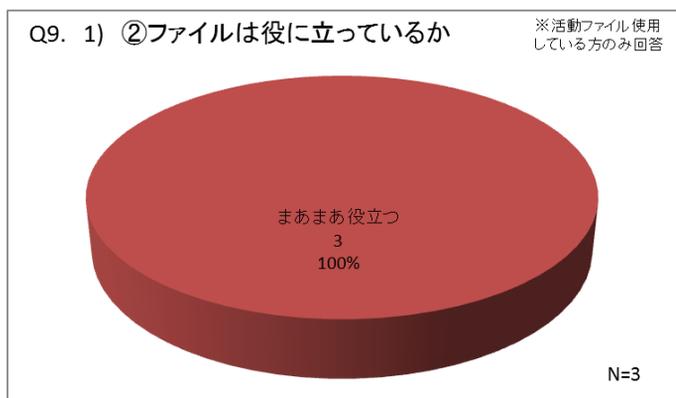
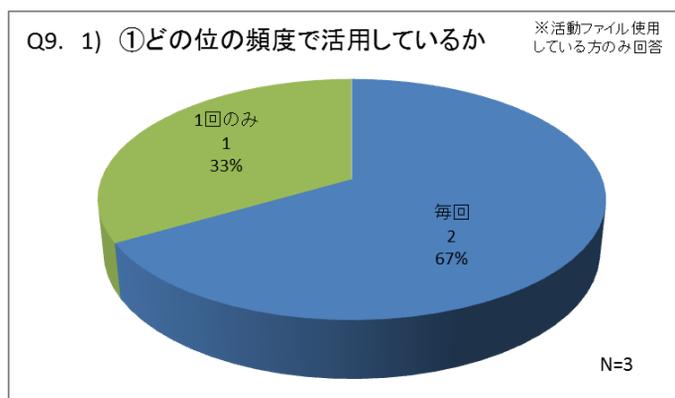
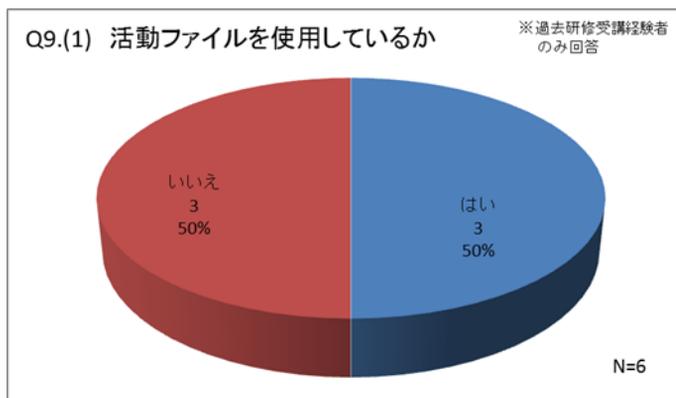
## Q7.(4) 午前の部・午後の部の良かった所・改善してほしい所

- 堀田先生の話は参考になった。グループワークでも色々意見が聞け参考になった。
- グループワークで実際にピアサポーターとして活動されている方々の具体的な話を聞くことが出来、よかったです。
- グループワークはとても良いと思う。
- グループで事例に対して意見を述べたことが良かった。もう少し時間をかけて欲しかった。
- グループワークでのワークショップは経験の違う方たちの意見が聞けてよかった。
- ワークショップで事例を挙げて話すことで気づかされるが多かった。
- ピアサポートのフォローアップとCDSMPの接点・共通点もしくは相違点が良く分からない。
- ワークショップが良かった。

## Q8. 今後の研修会で学びたい研修内容

- コーチング、デブリーフィング
- 堀田先生が紹介した「CDSMP(慢性疾患セルフケアマネジメント)(4名)」
- がんだけでなく、死生観はつきまとうので、もっと詳しく知りたい

# アンケート集計結果 <午後の部>



## Q11. ご意見・ご感想

- 患者さんのためにピアサポートを行いながらADLやQOLが改善されるように支援していきたい。
- このような機会を頂いて感謝です。有難うございました。